

10月12日、一の瀬では一の瀬山の神神社秋の例祭が行われました。春の6月12日と並んで年2回行われます例祭で、昭和38年の一の瀬地区初入植後、翌年の39年以来毎年行われているお祭りです。

古来より、日本では山川草木に神々が宿るといふ山の神信仰があり、一の瀬山の神の信仰も昔から地元杓野の人々が志賀の山に入つての、竹切りや山菜採り、炭焼き、岩魚釣り等又現代では旅館、索道事業等の山仕事の安全や収穫を願って始まったようでして、一の瀬では明治時代の初期にはあつたようです。当時は祭礼等の行事は無く、山仕事に入った人が個人的にご神木やご神石を選び祈りを捧げたようで、年中行事としてお祭りが行われるようになったのは一の瀬地区だけです。因みに山の神さんは女性で多産で12人の子供を生んだそうです。

又一の瀬では山の神さんのお祭りに合わせて、一の瀬水神祠のお祭りも行われ、清らかなる水の恵みに感謝して事故の無いようお祈りしております。

今号ではお祭りの様子と10月中旬の岩菅山をご覧ください。



一の瀬山の神神社の幟とファミリースキー場脇にある鳥居
幟の漢詩は佐久間象山先生の書を写したものです。



左は山の神神社の神事の様子です。



右は水神祠の神事の様子です。



上は丸池スタンド横のもみじ
右は岩菅山(10/11撮影)

